

## 第1章 個別の状況に応じた具体的支援について (応用編)

### ◇ 支援の始まりは気づきから

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】に掲載しましたように、気になるこどもの姿（サイン）に気づき、共感することから支援を行なってきました。

こどもの行動を観察し、どの部分につまずきがあるのかを見極め、必要な支援を考えて行いますが、支援を継続していてもこどもの姿（困りごと）が変わらない時や、成長に伴ってこれまでとは違うこどもの姿（困りごと）が出てきた時、行っている支援の内容を見直さなくてはなりません。

今どのような状態にあるのか、こどもの行動をよく観察し、どのようなことが得意でどのようなことが苦手で、そしてどのような支援が必要なのか、発達障がいの特性を捉え、それを生かした一人一人に合った適切な支援方法を考えましょう。

### ◇ 一人一人にあった支援を目指して

冊子【できた！わかった！たのしいよ！】の第1章、個別の状況に応じた具体的支援を試みてくださった方々から、「参考になった。」という声が多数あった中、「実際に支援を試みたが、うまくいかなかった。」という声もいただきました。発達障がいの特性は共通していてもこどもの姿は一人一人違い、同じ支援ではうまくいかないことも生じます。

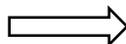
一人一人にあった支援を目指してパートⅡの第1章では、いろいろな場面で行った支援と、その支援によるこどもの状況でうまくいかなかったことに焦点を当て、〈なぜうまくいかなかったのか〉を振り返りました。そのうえで、こどもの姿と特性の捉え方が合っていたのか、具体の支援が合っていたのか、困りだけでなく強みを生かした支援となっていたのか、を見直し、次に行った一人一人への支援による効果と、集団で過ごす良さを生かし、集団で共に育ち合う支援の具体的な状況を紹介します。

紹介している具体的支援が、個別指導計画の中で示されていますので合わせてご覧ください。

## わかり、自分でできるための支援

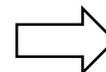
### [児童の姿]

気が散りやすく  
登所の準備がスムーズにできない。



### [具体的支援]

- ・まとめてできるように、絵のついたカゴを使って用意する。



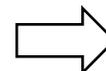
### [具体的な状況]

- ・カゴに全部入れることを拒み、今までどおりリュックサックから1つずつ出す方法にこだわる。
- ・カゴを使うか、使わないか、ということに気が散って登所の準備がスムーズにできない。



### [その後の具体的支援]

- ・カゴを使うか、1つずつ用意するか、方法を自分で選ぶ。



### [その後の具体的な状況]

- ・1つずつ用意するやり方を選び、見守られながら自分で用意をする。
- ・「見ててや。」と言いながら、スムーズにできるようになる。

### POINT



- ・周りに気が散りやすいため、動線を整理していきます。
- ・自分で選んだことで、スムーズになることがあります。
- ・集中できるように、タイムタイマーを使用して、時間を示すのもいいですね。

## 感覚過敏を和らげるための支援

[児童の姿]

のりの感触が苦手  
で、のりを使った制  
作活動を嫌がる。

[具体的支援]

・直接のりを触らなくていいように、筆でのりづけ  
を試してみる。

[具体的な状況]

・のりが手につくたびに手を洗いに行くので、制作  
活動が中断する。  
・筆を使うのりづけであると、自分でもするよう  
になるが、少しでも手につくと嫌でやめてしまう。

3

[その後の具体的支援]

・のりづけの時にすぐに手が拭けるように、濡れたタ  
オルを置くようにする。



[その後の具体的な状況]

・1回1回手を拭きながら、嫌がらずにのりづけをする  
ようになる。

### POINT

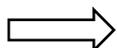


のりを使った制作活動では、指先を  
使うことにポイントが置かれますが、  
のりの感触が苦手なことには、スティ  
ックのりを使用し、手が汚れないよう  
にすることで、制作活動を楽しめる工夫  
もできますね。

わかり、自分でできるための支援  
(制作活動)

[児童の姿]

絵を描くのが苦手。  
紙を前にしても な  
かなか描けない。



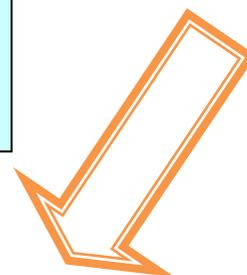
[具体的支援]

・保育士が側について、イメージできる絵本などを  
一緒に見ることで、色や形などのイメージを確認  
する。



[具体的な状況]

・絵本を見るだけでは、描こうとはしない。



[その後の具体的支援]

・こどもが「チューリップの絵を描いて」と言ったので、保  
育士が、チューリップの花の形を描き、「色は自分で  
塗ってね。」と、色を塗ることをすすめる。



[その後の具体的な状況]

・色を塗ることは集中してやりとげ、できあがったこ  
とに満足して、他の先生に見せに行く。

絵を描くことが苦手なこどもが、達成感を味わえるためのひと工夫

- ・描くきっかけ作りとして色塗りや、顔なら目だけ描いてみるようにする。
- ・絵描き歌に合わせて描く。
- ・保育士が描いた絵を真似っこする
- ・ステンシル（型抜き）をする。…P14①
- ・経験したことを写真に撮っておき、写真を見ながら描けるようにする。

POINT



絵のイメージの弱さを補う  
ために、保育士が形を途中ま  
で描いて続きを描くことをす  
すめたり、色を塗ることを任せ  
たりして、最後の仕上げをこ  
ども自身がすることで、達成  
感を味わう事ができるように  
するとよいです。

## 顔がイメージしにくい場合の支援

### ● 絵を描く前にやってみましょう

- ・ボディイメージのできる遊びをしてみる。

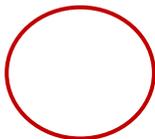
「目はどこかな?」「顔の真ん中にある鼻はどこかな?」などと言って、各部分を触る。etc.

- ・○△□の構成あそび

### ● 今度は一緒に描いてみましょう

- ・「顔の形はどんな形かな?丸?○ 四角?□ 三角?△」(○△□を描いて見せても良い。)

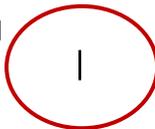
- ・「じゃあ、先生が○を描くよ。」



#### POINT

形は、保育士が描いてあげるとよい。

- ・「真ん中に鼻を描いてみようか。」



#### POINT

最初に鼻を描くと、他のパーツも位置をとりやすい。

- ・「鼻の両側に目を描いてみよう。」



#### POINT

絵を描くことがかなり苦手ならば、口を仕上げることでできたところで完成としてもよい。

- ・「鼻の下に口を描いてみよう。」



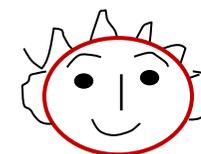
- ・「目の上に眉毛を描いてみよう。」



- ・「目の横に耳を描いてみよう。」



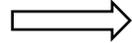
- ・「最後に髪の毛を描いてみよう。」



## 全体活動に参加しやすくするための支援

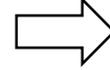
### [児童の姿]

歌を歌っている時に、じっとしていることが難しく、その場から離れる。



### [具体的支援]

・立つ位置に、足型マットを用意する。



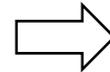
### [具体的な状況]

・初めてマットを使用した時には、立っていることができたが、2回目以降は効果がなかった。



### [その後の具体的支援]

・歌詞を書いた、小さな手持ちカードを見せる。



### [その後の具体的な状況]

・歌詞を指で追いながら、その場でじっと立っていることができた。  
(歌詞があると終わりが分かりやすいようだ)

### POINT

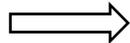


いつまでその場にいるのかがわからないようだったので、歌詞を見せて始めと終わりがわかるようにすることで安心して参加することができます。

歌詞カードがあると終わりがわかりやすいのと同じで、劇遊びの時に小さい台本、行事の時にミニスケジュール帳を持っておくのも有効です。

### [児童の姿]

我先に思ったことを口に出して言う



### [具体的支援]

・『※しゃべりませんカード』を見せ、今は静かにすることを知らせる。



### [具体的な状況]

・静かにする約束はわかっているけれど、思ったことをすぐに口にしてしまう。



### [その後の具体的支援]

・朝の会で沈黙の練習をする。その時は、黙って静かにすることをみんなで約束する。



### [その後の具体的な状況]

・両手で頭を押さえ、発言したい気持ちをとどめている。

### POINT



約束したことを守り、発言したい気持ちをとどめている姿を認め「よく我慢できたね。」と言葉をかけることが大切です。

※『しゃべりませんカード』…「できた！わかった！たのしいよ！」P16 参照

# 個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
社会性	・「手をあげて言う」「静かに」のクラスルールはわかっているものの、思ったことをつい口にしてしまい、みんなが静かにしておく場面でもしゃべってしまう。	・「沈黙の練習」の時には、しゃべらずに口を閉じる。	・短い時間を設定して、その間は口を閉じておくことを知らせ「静かに」とはどうしたらいいのか、具体的に感じとれるようにしていく。 ・後で聞く時間を設けることで、いつ言ったらいいのかわかるようにする。 ・きちんとクラスルールを守れている時にはほめる。	・「沈黙の練習」は口を閉じ、きちんと座ることを意識して取り組んでいる。手をあげて質問することも定着してきた。	・朝の会、終わりの会、制作時など決められた場面では話を黙って聞き、質問は手をあげて言うことが定着してきた。 ・今後は、いろいろな場面でしゃべってはいけない時があることを知っていく。(劇ごっこの中など)
この内容の支援をお願いします。				保護者名	

## 沈黙の練習

・・・P14②

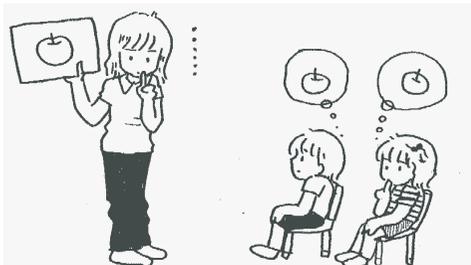
\* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \* \*

「今から3枚の絵カードを見せますが、何の絵か分かってもしゃべらずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せる。

\* **この練習を繰り返すと、外言語を内言語化することや、記憶力(ワーキングメモリ)を養うことにもつながります。**

\* **絵カードの枚数の目安**

**3歳児-1枚、4歳児-2枚、5歳児-3枚**



### 【応用】

\* 「朝の会が終わってから聞きますね。」「給食の後聞きます。」など、いつ尋ねるかを具体的に伝えておき、後から尋ねる。

\* スリーヒントゲームとして楽しむ。

# コミュニケーションを円滑にするための支援

## [児童の姿]

友だちに対して、うまく思いが伝えられず叩く。

## [具体的支援]

- ・叩いた時や、叩きそうになった時に、保育士が「貸して」「一緒にしよう」など具体的な言い方を知らせる。

## [具体的な状況]

- ・言葉で伝える場面や保育士に助けを求める場面が増え、たたく回数は減った。
- ・楽しい気持ちが高ぶると、無意識に手がでてしまう。
- ・友だちに「たたかんといて!」と言われて気づくことがある。

### POINT



少しの時間でも叩かずに過ごしている姿を認め、「今、叩かなかったね!」と、その都度褒めることが自信につながります。「叩かずに過ごすこと」は当たり前のことのように思えますが、その子自身にとって、とても頑張っていることなので、きちんと褒めることが大切です。

## [その後の具体的支援]

- ・友だちにも一緒に参加してもらい、叩かずそっと身体に触るなどのロールプレーをする。
- ・言葉で伝えられた時や叩かずに過ごしていること

## [その後の具体的な状況]

- ・ロールプレーを繰り返すことで、力加減を知り、コミュニケーションがとれるようになった。

ロールプレー以外の支援方法としてコミック会話や願望スキルがあります。

(「できた! わかった! たのしいよ!」 P 18・P 37 参照)

## [児童の姿]

友だちに一方的に関わり、相手の反応を楽しんだり、部屋の中を走り回っている。

## [具体的支援]

- ・クラスルール「部屋の中では歩きます」を伝える。
- ・別の遊びを提供したり「何をして遊ぶ?」と聞いたりして、自分で他の遊びを選択できるようにする。

## [具体的な状況]

- ・一時的にはおさまるものの、納得していない様子が見られる。落ち着くことができず、同じことを繰り返してしまう。

### POINT



体を動かしたい要求を十分に保障し、活動に「動」と「静」のメリハリをつけることで気持ちも落ち着き、室内遊びでのコミュニケーションを円滑にすることができます。保育士が仲立ちとなり、遊び方や関わりの中での言葉のやりとりのモデリングをします。

## [その後の具体的支援]

- ・まず、戸外で思い切り体を動かし気持ちを発散することで活動のメリハリをつける。
- ・室内では、友だち数人で一緒に遊べるように保育士が仲立ちとなる。

## [その後の具体的な状況]

- ・戸外で走ることで気持ちの発散もでき、室内では、保育士が仲立ちをすることで友だちと一緒に落ち着いて遊ぶようになる。

## 切りかえの弱さを補うための支援 <共に育ち合う>



ナチュラルサポーター：保育所生活を共に過ごす中で、対象児に対して自然な形で配慮やサポートをする友だち

○月×日

リレーの練習で、負けるとパニックになるA児。第1走者で、相手はナチュラルサポーターのB児。B児はゆっくりと走り、A児を先に走らせてくれている。保育士はみんなの気持ちを考えると、これでよいのかと悩むが、A児が負けて泣いて走らず、リレーが中断するのは避けたいと思う。



○月×日

A児を含んだ集団作りとして、リレーを成功させる方法を悩んでいたのが職員会議で話し合う。「ぼくらだって本気で走りたいねん！」という5歳児の一人一人の気持ちや、いつもA児を先に走らせてくれるB児の気持ちを考え、『負けても最後まで走る』というクラスルールを作り、担任だけでなく職員全員でバックアップすることにする。他クラスのこどもや保育士がリレーの応援に行き、運動会当日に向けてのシミュレーションをすることにする。当日まで一週間だが頑張ろう。



○月×日

全力のリレーが始まった。A児は負けると引っくり返って泣きバトンを投げていた。そこでこどもたちに、どのようにリレーを進めていけばいいのか、を投げかけ話し合いを行う。作戦会議の結果、A児の前に走るC児が「僕がA児にバトンを1番で渡してあげる。だから、A児も最後まで走りや」と言い、A児も納得してパニックが減っていった。



○月×日

作戦会議を繰り返す中、A児はC児の次の二番走者になった。A児のチームが勝っていると喜び、負けていると泣きそうになり、毎回、手に汗を握っている。今までは第一走者で勝つ体験しかしていなかったが、友だちに助けられ、話し合いを通して気持ちが切りかえられ、クラスルールを守れるようになってきた。B児を含むチームは、「やったー！本気で走れる。」「今度は負けへんで。」「(A児に)負けても泣いたらあかんで。」など気持ちが盛り上がってきている。

○月×日

運動会当日。C児がA児にバトンを渡した。相変わらず、味方の勝敗に一喜一憂していたが、少しずつ気持ちを切りかえることができるようになり、リレーが終わるまで応援することができた。運動会の取り組みを通してA児の気持ちだけでなく、クラス集団としての成長が感じられた。

### POINT

こどもの姿の受け止めや、支援の中で悩んだことは、支援会議を通して職員間で共に考え、保育所全体で共有して支援に取り組むことが大切です。職員集団の気づきや高まりも支援の充実につながります。

取組みの中で揺れ動く対象児の様子を保護者にも伝えて共有し、保護者にも認めてもらう言葉かけをしてももらうなど、保護者の力をお借りするのもいいですね。

### POINT

勝敗や1番になることにこだわりがある場合、1番に走ることや距離を短くするなどの方法をとることが多いのではないのでしょうか。しかし、5歳児になると一人一人の力が高まり、集団としてのまとまりや力も育ってくるので、ナチュラルサポーターや周りの友だちの意見を取り入れ、集団作りをしながら取り組めるようになります。対象児が自分の気持ちをコントロールする力がつくように、一歩進んで、集団遊びやリレーでは共に育ちあう関係作りにつなげていきましょう。

## 不安感を和らげるための支援

### [児童の姿]

初めてのこと、新しいことになかなか取り組めない。取り組むまでに時間がかかる。

### [具体的支援]

・事前に絵カードを見せたり、やって見せたりするなど、具体的に知らせる。

### [具体的な状況]

・簡単な体操などは、事前に知らせる事で参加できるが、ルールのあるゲームには参加しない。

### POINT



どうしたらいいのかわからないという事が不安につながり、活動に参加できなかったの、見ていることでやり方もわかり不安を解消することができます。

また、全部参加しなくても、見ているだけでもいいし、できるところから参加すればいい、という事を伝える事で安心して参加することができます。

### [その後の具体的支援]

・見ているだけでも良いという事を知らせることで、自分で「見ておきたい」と言えるようになる。

### [その後の具体的な状況]

・どんなことをするのか見ていることで不安が和らぎ、初回は見ているだけだったが、次回より少しずつ参加するようになる。

### [児童の姿]

しっぽとりで、しっぽをとられると怒り相手を叩く。

### [具体的支援]

・相手から離し、落ち着くまでそっとしておく。

### [具体的な状況]

・ルールを説明しても、しっぽをとられることが嫌で怒り続ける。

### POINT



自分の物を取られることは、遊びとして理解しがたく、不安な気持ちが攻撃として表れていました。しっぽとりをするだけで嫌な経験がフラッシュバックするので、クールダウンやルールの変更では乗り越えられないと考え、遊び自体を変えてみることで、集団のあそびにも参加できるようになりました。

### [その後の具体的支援]

・しっぽをとられることが不安なので、物を取られない鬼ごっこ(氷鬼)で、鬼ごっこの楽しさを知らせる。

### [その後の具体的な状況]

・不安が和らぎ、安心して友達と一緒に楽しむことができる。

## 個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
社会性	・しっぽとりでは、逃げている時はうれしそうだが、しっぽを取られると興奮し、怒って友だちを叩いてしまう事があった。	・友だちと一緒に氷鬼をする。	・鬼の帽子の色を変え、見本を示しながらルールをわかりやすく説明する。 ・遊んだ後は「みんなで遊んで楽しかったね」と共感するようにしていく。	・ルールが分かり、タッチされても怒らずに楽しむことができた。	・集団遊びが楽しいと思えるようになってきているが、内容によっては今の段階では楽しめず、不安を感じる事が分かった。今後も集団遊びの内容、ルールを考え、友だちと一緒に遊ぶことが楽しいと感じられる経験を積み上げていく。
この内容の支援をお願いします。				保護者名	

※遊びに、ひと工夫することで、不安を和らげることもできます。

たとえば…

○**すごろく1回休みカード** 1回休みの目に入った時に、1回休みカードを取り、次の順番の時に出す。

カードを出すことで、順番をとばされるといふ不安を和らげることができます。…P14③



○**おかわりしっぽとり** しっぽを取られても所定の場所からしっぽをもらうことができ、引き続き遊びに参加できるようにします。

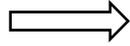
取られても終わりではなく、また参加できるということで安心できます。

初めは、何本でももらうことができるところから始めて、次は3本まで、次は1本だけもらえると 少しずつ減らしていくことで、スモールステップで不安を和らげていくことができます。…P14④

# 行事に参加するための支援

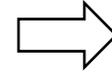
## [児童の姿]

はじめてのことや、行事になかなか参加できない。



## [具体的支援]

・スケジュールを書いたり、ビデオなどで当日することを伝えたり、お客さんが見に来ることも伝えておく。



## [具体的な状況]

・活動も理解して、お客さんが見にくることもわかっていたが、1回目の予行では見られていること、視線を感じるのが嫌で参加できなかった。

### POINT



行事では、当日に向けてのシミュレーションが非常に大切です。まず、一人一人の状況に応じて具体的に当日することを知らせていきます。しかし、することがわかっていても参加できない、ということもあるので、その理由が何であるかを考えて対処することが必要です。

## [その後の具体的支援]

・舞台の木の陰に隠れて視線を避けられる場所を作り、不安になったらその場所に入れるようにする。

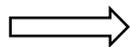


## [その後の具体的な状況]

・発表会当日は、木の陰に隠れ会場の様子を見ながら、自分で出られるところを出ることで参加することができた。視線を避けられる場所を設ける事で、不安が和らぎ参加できた。

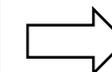
## [児童の姿]

言葉で伝えるだけでは、運動会の取り組みの流れが理解しにくい。



## [具体的支援]

・ミニスケジュール帳を作り、具体的に当日の流れや動きを伝え、確認する。



## [具体的な状況]

・ミニスケジュール帳に、書かれてない事が起きて泣いてしまう。

## [その後の具体的支援]

・困ったことが起きた時には、この保育士に言うように、名前という場所を伝えておく。



## [その後の具体的な状況]

・予想外のことが起きても「だいじょうぶ」と対処法を知らせておくことで、安心してとりくむことができた。

## 個別指導計画

項目	児童の姿	ねらい	具体的な援助・具体的な手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の時には、みんなと一緒に参加できるようになってきた。</li> <li>・リレーや鬼ごっこやドッジボールなどのゲームの途中で転んだり、予想外のことがあると、落ち込んで参加できなくなることもあるが、気持ちを立て直すことができる時もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の時に予想外のこと起きるなど、困ったことがあった時には保育士に言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転ぶ・ぶつかる・間違える・バトンを落とす、など予想されるトラブルについてあらかじめ話をしておく。『何かあっても最後まで泣かずに参加』することをクラスルールとして話をしていく。</li> <li>・スケジュール帳であらかじめ活動の内容を話し、疑問点を聞いたり、保育士の位置を具体的に知らせたりすることで、困ったことがあったらどうしたらいいかを伝える。スケジュール帳にない事が起きても、保育士に伝えたらよいことを話す。</li> <li>・頑張ったことは十分に褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予行練習では、転んだり竹馬のテープがはずれたりして泣いて落ち込んでしまったが、何かあったらどうしたらいいか具体的に話をしていく事で当日は安心して参加することができた。</li> <li>・日常の色々な場面で、わからないことは「せんせい、どうしたらいい？」と聞く姿が少しずつ見られるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の時には、保育士の位置をあらかじめ伝える事で不安を取りのぞき、落ち着くことができた。</li> <li>・日常の場面でも、困ったことや嫌なことがあった時には、保育士に伝えに行けるようにしていく。</li> </ul>
この内容の支援をお願いします。				保護者名	



ちょっとひと工夫！ 視覚支援の工夫やポイントを紹介します。

個別の状況に応じた具体的支援（応用編）とあわせて活用してください。



### ステンシル（型抜き）～絵を描くことが苦手な子どもが達成感を味わえるためのひと工夫～ ①

描こうとする絵の型を用意し、型の周りを画材（クレパス・筆・タンポ・鉛筆など）でふちどったり、型の中を色づけしたりします。出来上がったら、型はずします。



### 沈黙の練習 ②

「今から3枚の絵カードを見せますが、何の絵か分かっても言わずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せます。この練習を繰り返すと、外言語を内言語化することや、記憶力（ワーキングメモリ）を養うことにもつながります。



### すごろく1回休みカード ③

1回休みの目に入った時に、1回休みカードを取り、次の順番の時に出示します。カードを出すことで、順番をとばされるという不安を和らげることができます。



### おかわりしっぽとり ④

しっぽを取られても、所定の場所からしっぽをもらうことができ、引き続き遊びに参加できるようにします。取られて終わりではなく、また参加できるということで安心できます。

### 学校すわり

前を向く習慣をつけることによって、話を聞くことに集中しやすくなります。学校の授業を受ける練習につながります。

